

全国児童画コンクール

「全国児童画コンクール」は、CGCグループが絵画を通じて児童の情操教育を応援することを目的に、1982年(昭和57年)から毎年協賛している子どもの絵画コンクールです。毎日新聞社、毎日小学生新聞、日本児童画振興会が主催し、文部科学省から後援をいただいています。

応募要項

応募資格 全国の幼児および小学生(3歳～12歳まで)

応募規定 ① 絵のテーマは自由です。
使用する画材も、絵の具・クレヨン・クレパス・色鉛筆など自由です。

② 応募は一人一枚とし、未発表の作品に限ります。

以下の作品は、審査の対象外となります

- ③ 「専用応募画用紙」以外の画用紙を使って描いた作品
(「専用応募画用紙」をコピーしたものも審査対象外となります)
- ④ 絵や写真、キャラクターを真似るなど、他者の著作権を侵害する作品
- ⑤ 合作など、二人以上で描いた作品
- ⑥ 版画、貼り絵(作品の一部にスタンプなどを押したもの、
折り紙などを貼ったものも審査の対象外となります)

※ 応募用紙の必要事項に記入もれなどの不備があると、入賞できない場合がありますので必ずご記入ください。

※ご応募いただいた作品は当コンクールに関する出版・印刷物、報道、広告、ウェブサイト、ソーシャルメディア、展示会、その他関連制作物などに使用することがあります。

応募受付 このパンフレットを受け取られたCGCグループのお店で受け付けています。

受付期間 7月1日～9月5日

賞		
文部科学大臣賞		計4名
<幼児の部、小学校低学年(1・2年生)の部、中学年(3・4年生)の部、高学年(5・6年生)の部 各1名>		
毎日新聞賞		計5名
<幼児の部 2名、小学校低学年(1・2年生)の部、中学年(3・4年生)の部、高学年(5・6年生)の部 各1名>		
毎日小学生新聞賞		計3名
<小学校低学年(1・2年生)の部、中学年(3・4年生)の部、高学年(5・6年生)の部 各1名>		
日本児童画振興会賞		計4名
<幼児の部、小学校低学年(1・2年生)の部、中学年(3・4年生)の部、高学年(5・6年生)の部 各1名>		
CGCグループ賞		計13名(予定)
優秀賞		2,000名(予定)
入選		10,000名(予定)

◎審査員：審査委員長 春日 明夫先生<東京造形大学 名誉教授>をはじめ約20名の先生を予定

個人情報について

CGCグループは個人情報の取り扱いに関して「個人情報保護基本方針」を定め、その履行に努め、管理を徹底します。
ご記入いただきました個人情報は、主催の毎日新聞社／毎日小学生新聞／日本児童画振興会と協賛企業であるCGCグループの合意の下、CGCグループが厳正に管理し、法令により開示・提供を求められた場合を除き、絵画作品の審査、表彰状作成、入賞者発表、作品展示などコンクールの運営に必要な範囲で使用し、それ以外の目的で使用することはありません。また、CGCグループが適切な監督をおこなう委託先に必要な範囲で提供する場合を除き、個人情報をお客様の承諾なく第三者に提供することはいたしません。

全国児童画コンクールに関するお問い合わせ：☎03-5843-9738 ※平日10:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

CGCグループのウェブサイトでも、応募要項などをご案内しています

CGC児童画 検索



【主催】毎日新聞社／毎日小学生新聞／日本児童画振興会 【後援】文部科学省 【協賛】CGCグループ

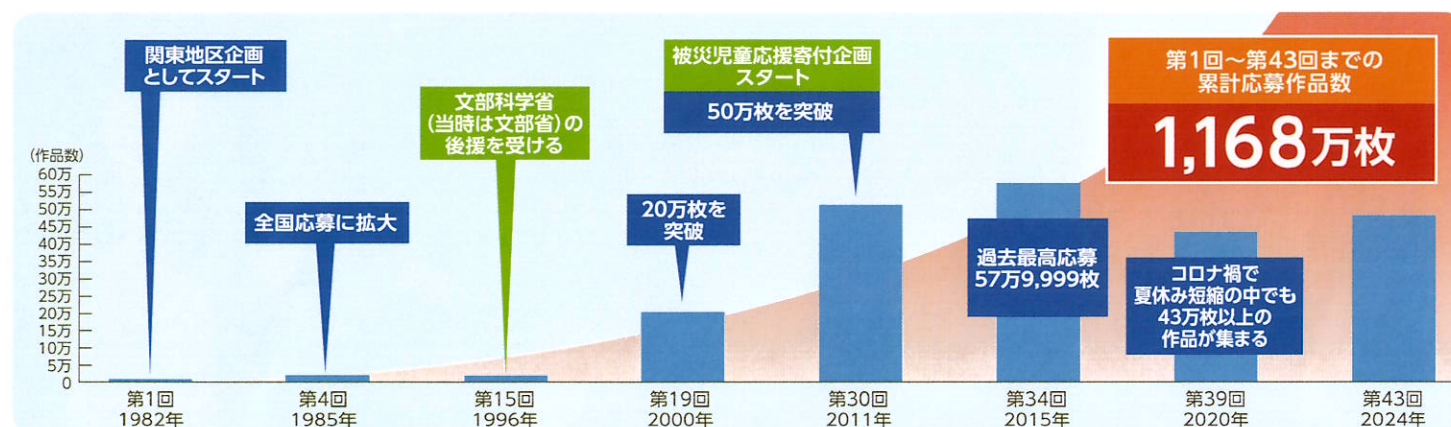
1982年から毎年開催 3歳～12歳の人口の20人に1人が 応募する日本一の児童画コンクール

「全国児童画コンクール」は1982年(昭和57年)、絵画を通じて児童の情操教育を応援することを目的に、CGCグループ加盟の食品スーパーマーケットで作品の応募を受け付けるところから始まりました。当初は関東地区に限っての展開でしたが、第4回から募集地域を全国に拡大。応募作品数は1999年の第18回に10万枚を超えて以降、第19回に20万枚、第21回に約30万枚と認知度の高まりに合わせて増え続け、第30回以降は毎年約50万枚の作品(日本の3歳～12歳の人口の約5%、20人に1人が応募)が集まる国内最大規模の児童画コンクールへと成長しました。



第42回から上位賞の小学生学年区分を細分化 「小学校中学年(3・4年生)の部」新設

第42回のコンクールからは、児童の成長過程に合わせて適切に審査を行って評価をする目的から、文部科学省の小学校図画工作の学習指導要領の学年区分に合わせ、上位賞の小学生の学年区分を細分化し、3・4年生を対象とする「小学校中学年の部」を新設。文部科学大臣賞以下、日本児童画振興会賞まで適用しました。



東日本大震災発生後の第30回から寄付企画を実施 10年間、被災3県へ寄付

「全国児童画コンクール」では、作品応募1枚につき、CGCグループが寄付金を積み立てて寄付するという企画を継続して実施しています。東日本大震災が発生した第30回から始めて、第39回までの10年間に累計4,661万6,635円の寄付を、甚大な被害を受けた福島、宮城、岩手県の被災児童育英基金へお届けして被災児童を応援させていただきました。

	寄付先	累計寄付額	累計寄付額合計 4,661万6,635円
福島県	ふくしま子ども寄付金	1,580万5,901円	
宮城県	みやぎ子ども育英基金	1,568万9,076円	
岩手県	いわての学び希望基金	1,512万1,658円	

全国児童画コンクール
寄付企画

画題やテーマは設けず、全応募作品を審査

「全国児童画コンクール」では、開始当初から変わらずに続けてきたことがあります。

一つめは、作品を募集するのにあたり、「画題やテーマは設けない」こと。子どもたちが見たこと、感じたこと、考えたことを自由に絵で表現することが想像力の発達など、子どもの成長にとって大切である、と考えているからです。

二つめは、全応募作品を一枚一枚ていねいに審査することです。学校選考や地区選考などはせず、美術大学の教授や小学校の先生など児童画教育の専門家が、東京の事務局へ集められた全応募作品を審査します。



募集活動の拠点は、全国にある CGCグループ 食品スーパーマーケット店舗

「全国児童画コンクール」の応募受付期間は、夏休み期間にあたる7月1日～9月5日。

コンクール開始以来、続けてきたことの三つめであり、このコンクールの特長であるのが、北海道から沖縄まで全国のCGCグループ加盟スーパーマーケットが募集活動の拠点となることです。店頭での画用紙の配布をはじめ、近隣の保育所や幼稚園、小学校へ画用紙をお持ちして応募をお願いし、お店で作品を受け付けます。集まった作品はお店単位で東京の審査会場へ送付され、審査をして、お店へお返しします。

募集活動を通じてお店と地域の子どもたち、お客様、学校とコミュニケーションが深まり、お店によっては、応募作品を店内に展示したり、お店で表彰式を開催したりしてコミュニケーションを強化しています。



第40回以降「子どもたちの未来を応援」する寄付企画に

第40回以降、「子どもたちの未来を応援」する寄付企画として、上位賞の受賞者が居住する市町村の子ども未来課などに分配寄付する企画を実施し、直接、寄付をお届けしています。

第43回は、文部科学大臣賞の受賞者4名が住む4市へ作品1枚あたり20円をCGCグループが拠出し、総額944万9,220円を分配して(1カ所236万2,305円)寄付させていただきました。

